

中小機構景況調査2026年秋、人手不足感が3期ぶりに強まった ――製造・物流・建設の現場帳票手入力をなくす3つのステップ

この資料の要点

- ・ 業況5期ぶり改善でも人手不足感は3期ぶりに強まった（中小機構2026年7～9月期景況調査、業況DI -15.5、過不足DI -23.5）
- ・ 製造・物流・建設の現場では「紙帳票 → PC手入力 → 基幹システム転記」の工程が毎日発生し、担当者1人当たり年間250～500時間が手入力に消えていることがある
- ・ AI-OCRを使った帳票手入力の自動化は、最もボリュームの多い帳票1種類からスモールスタートで段階的に展開できる

景況調査が示した「業況回復×人手不足深刻化」という逆転

2026年9月30日に中小機構が公表した2026年7～9月期景況調査では、全産業の業況判断DIが-15.5と前期比3.2ポイント上昇し5期ぶりの改善となりました。5業種すべてで改善が確認されています。

一方、従業員数の過不足DIは-23.5と3期ぶりに不足感が強まりました。採算DIも-21.4と業況DIより低い水準が続いています。業況は回復しているのに、人手不足と採算の厳しさは変わっていない――この現実が、現場の「手入力業務」問題を放置することの危うさを示しています。

自社で確認できる現場帳票チェックリスト（6項目）

#	確認すること	「はい」のとき示す課題
1	毎日処理する紙帳票が3種類以上ある	手入力の対象が分散し、総工数が見えにくい
2	帳票からPCへの転記に1日1時間以上かかっている	年間250時間以上の工数が手入力に消えている
3	ExcelとシステムへのデータDを複数回入力している	重複入力によるミスと工数の二重発生
4	帳票処理が特定の1～2人に集中している	休暇・退職で業務が止まる属人化リスク
5	転記ミスによるトラブルが過去に起きたことがある	手作業の精度限界に達している
6		AI-OCRが最も精度を出しやすい条件

#	確認すること	「はい」のとき示す課題
	帳票フォーマットが固定されている（同じ取引先・工程から同じ様式）	

3項目以上「はい」があれば、AI-OCRによる自動化を検討する段階です。

■ 現場帳票の主な種類

- ・ 製造業：作業日報、製造指示書、品質検査成績書、出荷伝票、材料受入票
- ・ 物流業：入在庫伝票、配送明細書、受取確認書、棚卸表
- ・ 建設業：施工日報、資材受払帳、安全点検表、出来形管理表

固定フォーマット・大量発生・転記必須の3条件が揃う帳票がAI-OCRの効果が最も出やすいタイプです。

■ 現場帳票の手入力をなくす3つのステップ

ステップ1：ボリュームの多い帳票1種類からAI-OCRを試す

「1日に最も枚数が多い」か「転記に最も時間がかかっている」帳票を1種類特定し、AI-OCRエンジンに帳票フォーマットを学習させます。印刷帳票・スタンプ帳票は精度が出やすく、スモールスタートに最適です。PoC（概念実証）は数週間～2ヶ月で実施できます。

ステップ2：読み取り結果を基幹システムへ自動連携する

AI-OCRで読み取ったデータを基幹システム（受発注管理・生産管理・在庫管理・会計）へ自動で流し込む仕組みを作ります。APIによるリアルタイム連携、CSVインポート、RPA経由の入力など、既存システムの仕様に合わせて方法を選択します。信頼スコアが低い行だけ担当者が確認・修正する設計で、対応工数を最小化します。

ステップ3：対象帳票を順次拡大し「転記ゼロ」の範囲を広げる

1種類の帳票で精度と運用が安定したら、他のフォーマットに展開します。固定フォーマットを優先し、変動フォーマットは後半に回します。段階的に対象を広げることで「転記ゼロ」の範囲が拡大し、担当者の工数は確認・例外対応だけに集中できます。

■ よくある質問

Q：AI-OCRは手書き帳票にも対応できますか？

A：手書きは印刷帳票より精度が下がりやすいため、まず印刷帳票から始めて精度を検証することをおすすめします。手書き専用OCRを組み合わせる方法もあります。

Q：使っている基幹システムへの連携は可能ですか？

A：API・CSVインポート・RPA経由など、システムの仕様に合わせた連携が可能です。まずシステム仕様をご確認のうえご相談ください。

Q：どのくらいの規模から始められますか？

A：1日10枚以上の帳票処理があれば費用対効果を見積もりやすくなります。1種類の帳票・1工程からのスモールスタートが一般的です。

製造・物流・建設の現場帳票を
AI-OCRで自動化する相談は

<https://dnd-inc.jp/contact.html>

ご相談・お見積りは無料です

出典：独立行政法人中小企業基盤整備機構「2026年7～9月期 中小企業景況調査」2026年9月30日公表

URL：<https://j-net21.smrj.go.jp/>

本資料の内容は公開情報をもとに株式会社DnDが整理したものです。特定のシステム・サービスの安全性・効果を保証するものではありません。